



らぶく
La・Book

12月号

No.90

安曇野市図書館

新年「本のお年玉」

令和2年1月5日(日)～

今年も1年、安曇野市の図書館をご利用いただき、ありがとうございました。振り返りますと、長野県が発祥と言われている、学校で使われるふた付きの図書袋の古今を探り、あらためて図書袋の利用を呼びかけようと始めた「図書袋運動」。そして松山三四六さんを講師に招いた「中央図書館10周年記念講演会」や絵本作家の高畠那生さんの講演会を主に盛況に開催された図書館フェスタの様子など、幾つかの思い出深い場面が浮かんできます。

さて、令和になって初めてのお正月。安曇野市の図書館では、恒例となっております「本のお年玉」を計画しています。新しい年を迎え、気持ちも新たに、いつもと違うジャンルの本を読んでみませんか？



毎年、新しい発見を楽しんでいただいています。私たちがテーマを考え、それに合ったおすすめ本2冊を英字新聞に包んであります。「のし」には、対象年齢

とテーマが書いてありますので、これらと思うセットをカウンターへお持ちください。限られた数となっておりますので、各館ともなくなり次第終了となってしまいます。どうぞお早めにご利用ください。



これからも子供達と一緒に、素敵な絵本や本を探しに図書館を利用していきたいと思いま



す。私には子供達から本を読む楽しさを教えてもらったような気がします。子育てや家事の合間に自分の時間を作って、その時間を本を読むことに充てたいと思うようになりました。

私は本を読む習慣がありませんでした。そのため図書館を利用することがほとんどありませんでした。そんな私が、今では月に二〜三回図書館を利用し本を借りるようになったのは、子供が産まれて母になってからのことです。私には、五歳、三歳、一歳の三人の娘がいます。子供達はともにも絵本が好きで、図書館へ行くことをとても喜びます。どれを読もうか、どれを借りようかと本を選んでいく子供達の顔は、とても生き生きと輝いてみえます。子供達にとって、その借りた本を毎晩一冊ずつ読むことが寝る前の楽しみとなっています。私にとってもその時間は楽しみであり、子供達とゆったりと過ごせる大切な時間です。

30代 主婦(豊科)

私と図書館

絵本と大切な時間

堀金図書館

奮闘!? 調べもの日記(レファレンス)

おおが
大賀ハス(蓮)について

大賀ハスは、昭和26年(1951)3月30日千葉市内の東京帝大検見川厚生農場の泥炭層から発掘した、約2000年前の古代ハスの実から発芽・開花したハスのことをいいます。時を超えて花を咲かせ蘇らせたことに、悠久のロマンを感じます。



発見者は、岡山市出身の植物学者・大賀一郎博士(1883~1965)で、世界的なハスの研究家として知られています。発見された3粒の実のうち1粒の発芽に成功し、翌年7月18日に見事な淡紅色の花をさかせました。米国ライフ誌にも掲載されました。ハスは博士の姓をとって「大賀ハス」と名付けられました。

古来日本ではハスを極楽浄土・冥途、中国では陽気な吉祥花として使われていますが、大賀博士は、「ハスは平和の象徴なり」との標語をつくりました。この標語とともに国内や中国や欧米の各地に株分けした大賀ハスの花を送ったところ、各地に花を咲かせているそうです。

千葉市では、検見川地区通りに「大賀ハス通り」の名や歩道のタイルにハスの絵が描かれています。ちなみに、市のマスコット『ちはなちゃん』は、頭に大賀ハスの大きな花をつけた妖精です。

<関係資料>

『大賀一郎 ハスと共に六十年』	大賀一郎/日本図書センター	1999年
『心を育てる偉人のお話1』	西本鶏介/ポプラ社	2006年
『見る、育てる、味わう 五感で楽しむ蓮図鑑』	高畑公紀/淡交社	2018年
『そだててあそぼう78 レンコン(ハス)の絵本』	尾崎行生/農山漁村文化協会	2008年

11月予約ランキング

一般書

- 1 ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー / プレイティみかこ
- 2 ツナグ 想い人の心得 / 辻村深月
- 3 祝祭と予感 / 恩田陸
- 4 背中の蜘蛛 / 誉田哲也
- 5 落日 / 湊かなえ
- 6 カエルの小指 / 道尾秀介
- 7 暗約領域 / 大沢在昌
- 8 つけびの村 噂が5人を殺したのか? / 高橋ユキ
- 9 マチネの終わりに / 平野啓一郎
- 10 ライオンのおやつ / 小川糸

児童書

- 1 なまえのないねこ / 竹下文子
- 2 ふめつのせつとうだん / トロル
- 3 おいしいふくやさん / のしさやか
- 4 あやうしたんていじむしょ / トロル
- 5 かいとうVSたんてい / トロル
- 6 ラッキーキャットはだれのに! / トロル
- 7 くるみのなかには / たかおゆうこ
- 8 ことわざ・慣用句・故事成語・四字熟語 / 倉島節尚
- 9 ころべばいいのに / ヨシタケシンスケ
- 10 写真で読み解く俳句・短歌・歳時記大辞典 / 塩見恵介

AV資料

- 1 天空の城ラピュタ / 宮崎駿
- 2 ZARD Forever Best / ZARD
- 3 白雪姫 スペシャル・エディション

中央図書館から

本のソムリエ(司書)おすすめ本

一般書 『ことばのしおり』

堀井正子 / 著 信濃毎日新聞社

表紙

信濃毎日新聞に「読書案内CRESSON(クレソン)」という、毎月十五日に載る広告企画があります。この本はそこに連載されているエッセイをまとめたものです。ひと月を一つの言葉でしおり、日本語の季節とともに移ろう美しさが短くさりとした文章でつづられています。例えば十二月には、冬將軍・湯たんぼ・北風小僧などがあり、あらためて季節を感じたり、過ぎし日を懐かしんだりとほっこりした気持ちになります。「その二」も出されており、今も連載中です。

児童書 『うるうのもり』

小林賢太郎 / 絵と文 講談社

表紙

「うるう」というお化けが出ると言われる森へ、10歳の「ぼく」は虫取りに行った。そこで出会ったのはお化けではなく、不思議な格好の男だった。ぼくが友達になりたくて森に通うと、うるうは「私は余り1の人間なんだ」と言って嫌がった。けれどある日、うるうはなぜ一人で森にいるのか、本当の理由を教えてくれた。その秘密を知ったとき、ぼくは…。

中央図書館

11月7日(木)、21日(木)に大人のための絵本講座を開催しました。

「おとなが楽しむえほんの世界」と題して、大人が味わうのに向いている絵本の紹介をしました。「五感をとぎすます」「自分を見つめる」「頭をほぐす ころもをほぐす」などのテーマ別に、絵本専門士の資格を持つ職員が55冊の絵本を選び、作者の経歴や講演会などで直接聞いた話を交えてお話ししました。

2回目の21日は、絵本の紹介の後、ふたり一組になって「読み合い」をしました。普段読み聞かせをしていますが、私たちはいつも文字ばかりを追ってしまい、驚くほど「絵本を見て」いません。自分のために絵本をながめる楽しさを体験していただきました。



編集・発行・お問い合わせ



中央図書館 ☎84-0111
 豊科図書館 ☎71-4022
 三郷図書館 ☎76-3078
 堀金図書館 ☎72-3601
 明科図書館 ☎62-1122

(図書館ホームページ(蔵書・資料の検索もできます))

<http://www.city.azumino.nagano.jp/site/tosho>

※編集後記※

平成から令和へ、大きな節目となる年でありましたが、皆様はどんな一年だったでしょうか?

安曇野市の図書館では、図書袋の歴史を探り、本を大切に扱うために積極的な利用を呼び掛けた「図書袋運動」が、SBC信越放送「すぐだせテレビ」の「噂の調査隊」というコーナーで紹介されました。

何かと慌ただしい年の瀬ではありますが、皆様には、風邪などひかないように、健康で輝かしい新年を迎えられますようお祈り申し上げます。

